

令和5年度

# 研修集録



秋田県立湯沢翔北高等学校

## 目 次

巻頭言	校長 坂本 寿孝	1
各種年次研修等		
実践的指導力習得研修（5年目）を終えて	門間 雅則	2
授業研修		
互見授業実施要項		7
学習指導案・授業資料等		8
授業参観シート等		16
総合ビジネス科の取り組み		
リーダーズキャンプ・ビジネスプランニングコンテスト		20
校内研修会		
不祥事防止研修会	研修部	21
編集後記		27

このたび、令和5年度研修集録が発刊のはこびとなりました。編集者、執筆者各位の御努力に厚く感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は令和2年（2020）年1月に日本で最初の感染者が確認されてから、次々変異を繰り返して流行し、私たちを苦しめてきました。しかし、令和5（2023）年5月に感染法上の5類へ移行したことで、基本的な感染防止対策をした上で正常化しつつあり、幸い学校もほぼコロナ禍以前に戻りました。これは今年度の大きなトピックでした。

この間、学校教育に関しては、令和4年から高等学校でも新しい学習指導要領が年次進行で実施されています。同時に高大接続改革の取組も進められ、特に令和5年度大学入試では「年内入試」へのシフトが進み、総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者が一般選抜による入学者を上回りました。

また、令和3年4月には中央教育審議会より「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（いわば子供のたちの学び）が出されました。さらに、令和4年5月には教育公務員特例法及び教職員免許法の一部を改正する法律が成立（教員免許更新制度の廃止等）し、同年12月には再び中教審から「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等のあり方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）（いわば教師の学び）が出されました。

なお、本県については、令和3年度から「ICTを活用した秋田の教育力向上事業」が実施されていますし、「高校入学後の学力差をつくらない、入試日程の長期化を防いで中学校と高校の教育活動への影響を少なくする」という観点から令和5年度公立高等学校入学者選抜から実施方法が変更されています。具体的な変更点は、①令和4（2022）年度入試まで実施されていた「前期選抜」に代わり「特色選抜」を実施すること、②「特色選抜」と「一般選抜」を「1次募集」として同日に実施すること、③「特色選抜」でも「一般選抜」と同じ5教科の学力検査を実施すること、です。

教育基本法第9条にあるように、教員は「自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努める」ことが求められています。令和の日本型学校教育を担うため、これからも時代や社会の変化に対応し、誰一人残さず、一人一人の可能性を最大限に引き出す教育を実現すべく自律的・主体的に学び続けていきたいものです。教員が変われば子供が変わります。子供が変われば未来はきっと変わるはずです。

## 実践的指導力向上研修講座(高等学校5年目)を終えて

門間 雅則

### ■ I 期について

「教育相談と人間関係づくり」の講義・演習では教育相談における大切にしたい考え方や技法など演習を交えながら学んだ。時代の流れと共に多様な生徒が増加している中で生徒に寄り添いながらも「育てるカウンセリング」が重要となる。学校現場にはさまざまな人間関係があることに気づき、幅広い視野と柔軟な考え方で事例(問題)に対応できるように常日頃から生徒に目と心を向けていきたい。

各教科での講義・演習では多様な視点からの授業改善をねらいとして行った。学校や生徒の実態が違う中で他校の先生方が研究、工夫して取り組む授業には感心させられるものばかりであった。同時に自分の取り組みを省みる機会とすることができた。特に考えたのは生徒の思考を深めることが大切であるということだ。1単位時間の中でねらいを設定し、生徒自身が新たな課題を設定できるように発問を工夫したり、集団での活動を工夫したりして生徒たちが考えるきっかけを多くもてるような授業を目指していきたい。

### ■ II 期について

主に「発達障害のある生徒の理解と支援」というテーマで講義・演習を行った。特別支援教育の現状と傾向を理解し、実際に生徒が抱える困難さやその困難さの背景にあるものなどの理解を深めた。また障害ごとの具体的な特性や対応について演習を交えて学ぶこともできた。多様な生徒が増えてきている今、インクルーシブ教育システムや合理的配慮についても理解を深め、的確な対応、指導ができるように努めていきたい。

各教科の協議・演習ではI期の研修で行った授業実践から新たな課題を設定し、その課題に取り組んだ過程と成果を協議の題材とした。共通して挙げられたものとしては体育授業でのICTの活用だ。これについてどの学校も試行錯誤しており、学校の環境面でも難しい点があるようだった。また本校体育科の課題の一つでもある「指導と評価の一体化」についても先生方の考え方や工夫を学べるよい機会となった。

### ■ 所感

5年研を終えて、授業に対しての取り組みを今一度見直し、勉強していかなければならないと強く感じさせられた。時代と共に変化していくことに柔軟に対応し、その中でも不変的な生徒に寄り添う心や熱意を忘れずに取り組みたい。今後更に教員として、生徒の人生の道標となる大人として日々精進していきたい。

教職5年目研修講座（高等学校）Ⅰ 実践レポート

学校名	秋田県立湯沢翔北高等学校	氏名	門間 雅則	教科	工業
-----	--------------	----	-------	----	----

「自校の生徒の実態を踏まえた授業展開の工夫と、実践上の課題」

### 1 課題

工業の科目:製図の授業の課題について取り上げる。この授業では座学と実習の中間に位置する内容のため、生徒の興味・関心が高く意欲的に取り組む生徒が多い。製図の得意・不得意に関わらず、自ら課題を解決しようとする姿が見られる。一方、自分の力だけで解決しようとするあまり、他者との関わりを断ってしまい、教師側から声かけをして初めて他者と関わる行動に移るため、進度に遅れが生じてしまい苦手意識を持ってしまう生徒も一定数いる。

### 2 課題の改善に向けた授業実践

「問い」を発するとはただ問題提起をするのではなく「問題解決の見通し」「問題解決を図る」「問題解決を振り返る」などのサイクルが重要であると考えている。工業技術科としても生徒の情報を共有しながら、各々の目標を明確にさせ、座学や実習等で効果的、継続的な取り組みをしている。

製図の授業では、本時の目標を説明しながら机間指導し、進度が遅れている生徒や製図が苦手な生徒に対してのフォローを心がけている。また、進度が早い生徒は遅れている生徒に対してサポートするよう指導している。それにより、教師の目が届かない場面でも生徒同士で積極的に助け合う姿勢が生まれコミュニケーションが活発化しクラス全体がまとまる。

ICTに関しては、各教室に備え付けられている電子黒板を利用している。例えば第三角法の場合、対象物の各面に色をつけて正面図、平面図、右側面図の作図をするヒントとなり、直感的にどの面が書き表されているか分かりやすくしている。ただし、色覚異常や座席により見にくい生徒が数名いるため多少の配慮は必要である。今後はCAD室でも授業を実施するため、Solidworksなどの設計アプリケーションソフトを利用しアセンブリ等を行う。その際は全体で画面共有し、過程を説明させて言語活動を充実させる。

課題としては、授業の中で様々な活動を実践していく中で「活動をする」ことが（ねらい）となってしまう傾向がある。特に学校全体として推進しているICTの活用においては先ほども述べたことだけでなく様々な利点があるが、生徒に身につけさせたい力、伸ばしたい力を確実に意識したうえで授業構成する必要がある。また、本校は工業技術科だけでなく、普通科や総合ビジネス科もあるため、教科横断的な教育活動の実践にも取り組んでいきたい。

教科書P78～

## 3節 鉄鋼材料

【自宅学習】

## 鉄について

→クラスルームで回答確認

3節 鉄鋼材料

【回答例】

- ・ 元素記号はFe
- ・ 鉄鉱石からつくる
- ・ 地殻中にある

などなど…

3節 鉄鋼材料

【門間から出題】

鉄は英語で…？

iron

3節 鉄鋼材料

【門間から出題】

鉄を利用した製品は？

※学校にあるものに限定

→Jamboardを活用しよう

3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】



鉄鉱石



← 高炉



銑鉄



← 転炉や電気炉



鋼

3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】

鉄鉱石はどこから輸入



3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】

鉄鉱石はどこから輸入…？

輸入の割合

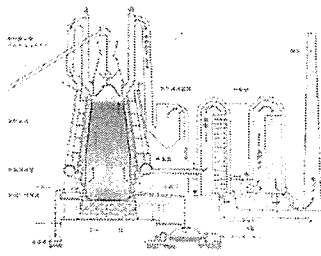
オーストラリア 59.5%

ブラジル 27.6%

二国で約87%を占める

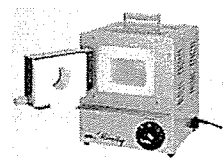
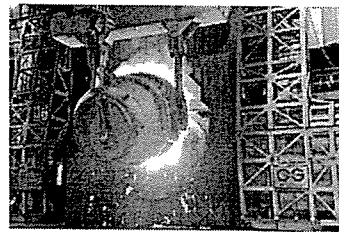
3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】 高炉



3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】 転炉や電気炉



3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】

鉄鉱石から銑鉄を取り出す  
作用を**製銑**という

→還元作用を利用する

3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】

還元作用とは…？

物質から**酸素**が  
奪われる反応

3節 鉄鋼材料

【銑鉄とは】

- ・炭素含有量が多い
- ・不純物が多い →鍛造, 圧延×
- ・融点が高い
- ・流動性が良い →鑄造○

3節 鉄鋼材料

【鋼とは】

不純物を減らす

↓

工業材料として使用

脱炭精錬の工程を**製鋼**という

3節 鉄鋼材料

【鉄とは】

実は・・・

**炭素含有量**の違いで  
名称が違う

3節 鉄鋼材料

【鉄とは】

炭素含有量の違い

(純) 鉄	0.02%未満
鋼	0.02~2.14%
銑鉄	2.14~6.67%

3節 鉄鋼材料

【補足】

鉄は英語で『iron』

鋼は？

『steel』

3節 鉄鋼材料

【補足】

日本の3大製鉄会社

- ・日本製鉄
- ・JFEホールディングス
- ・神戸製鋼所

3節 鉄鋼材料



# 令和5年度 互見授業（授業研修）実施要項

研修部

## 1 目的

本校教員が互いに授業を参観し合うことにより、自教科における授業力向上や、他教科の授業のやり方や進め方を学びます。授業を意識化し、優れた点や問題点を発見することで、よりよい授業改善につなげることを目指します。また、生徒理解を深める機会となります。

## 2 期間

11月1日(水)～11月20日(月)

## 3 方法

あらかじめ各教科において授業者（チームでも可）、日時、クラス、内容（予定）をお決めください。また授業の流れが分かる簡素な資料や、可能であれば、簡略的な指導案も準備していただきたいと存じます。

各教科から互見授業の授業者等をお知らせください。また今年度、年次研修や指導主事訪問等で校内で研究授業された教科（国語・地歴公民・保健体育・英語・商業）については、研究授業を互見授業に代えて実施したものとします。（希望される場合はその限りではありません。）よろしく願いいたします。

各教員は自教科・他教科それぞれ1回以上参観し、「授業参観シート」を提出ください。

## 4 今年度のテーマ

「表現力を高めるための指導の工夫」～言語活動の充実を目指して～

## 5 授業参観シートについて

- A 授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
- B ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し表現する場面が設定されているか。
- C 観点別学習状況評価

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

について記述し、印刷した用紙を授業者および研修部（亀沢 横の箱）に提出ください。

データは、

【¥職員共有¥09 研修部 ¥2023(R05)研修部 ¥10 互見授業 ¥令和5年度 授業参観シート】

このフォルダに参観した教科と参観者名をファイル名として保存してください。

## 6 その他

授業参観シートに記載されたものを抜粋し、令和5年度研修集録に記録します。

## 地理歴史科（世界史 A）学習指導案

秋田県立湯沢翔北高等学校

日 時：令和5年10月3日（火）6校時

対象生徒：3年C組 32名

使用教科書：第一学習社『高等学校世界史A』

授業者：藤原 吉隆

1 単元名 第2章 結びつく世界と近世の日本 10 17～18世紀のヨーロッパ諸国

### 2 単元の目標

ヨーロッパで主権国家体制が確立した後の複雑な外交について、歴史的背景と照らし合わせながら理解する。

### 3 単元と生徒

本単元では、主権国家体制が成立した後のヨーロッパの外交について学習する。各国が国家の利益を追求して世界に進出することにより、アメリカ大陸やアジア、アフリカにもヨーロッパの大きな影響を与える。特にイギリスとフランスの海外進出はその影響が大きく、それが現在の生活や文化に影響を及ぼしていることにも気づかせたい。

今回は3年C組（総合ビジネス科）のを対象とした授業である。歴史の授業は中学校以来で、基礎的な事項も覚えていない生徒が多いが、教員側の指示に従って「話す」「書く」「話し合う」ことがしっかりとできるクラスである。

また、知識は乏しいながらも意欲的に意見を交わすことができる。未知の事象について考察し、自分の意見を主張する姿勢を授業内で育ませたい。

### 4 指導と評価の計画

単元の指導計画（3時間）

- 1 フランスの絶対王政とイギリスの立憲君主政（1時間）
- 2 プロイセンとオーストリア（1時間）（本時）
- 3 ロシア帝国（1時間）

〈単元の評価規準〉

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
評価の観点	質問や発問に積極的に取り組み、18世紀のヨーロッパ情勢に関心を高め、意欲的に学習しようとしている。	近代以降のヨーロッパの情勢について、既習事項を踏まえて適切な文章でまとめることができる。	地図や資料集から有用な情報を適切に選択し、言葉や図でまとめることができる。	15世紀から18世紀にかけてのヨーロッパに関する知識を身に付けている。

## 5 本時の計画

### (1) 本時のねらい

16世紀以降のヨーロッパ各国の情勢に基づいて、18世紀中頃の外交の変化について文章でまとめることができる。

### (2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>三十年戦争後の神聖ローマ帝国について隣どうして復習をする。</li> <li>目標の確認し、プリントに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェストファリア条約の内容を確認させるが、ポイントを絞るよう指示する。</li> </ul>	
	<p>本時の目標</p> <p>17～18世紀にかけての、ヨーロッパにおける外交の変化を理解する。</p>		
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーストリアとプロイセンの台頭についてパワーポイントを見て確認し、プリントに記入する。</li> <li>オーストリア継承戦争の勃発について説明を聞く。戦争の結果と、その後の展開についても確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて登場する国であるため、十分に理解してもらうために両国の状況について詳しく説明する。</li> <li>生徒に簡単な発問をし、この後の展開について考えてもらう。</li> </ul>	<p>自分の意見を積極的にグループ内で交わすことができたか。(ア)</p> <p>【プリント】</p> <p>【観察】</p>
	<p>課題</p> <p>オーストリア継承戦争後、オーストリアはどのような外交をしたのか？</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ロールプレイ活動】グループ内で一人ずつ「オーストリア」「プロイセン」「フランス」「イギリス」の役割になり、どのように外交を展開すれば、自国の利益になるか考え、プリントにまとめる。</li> <li>お互いに意見を交換しあい、同盟関係を結んだり、対立してみたりする。</li> <li>グループで話し合った結果を全体で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの国の事情を書いたプリントを配り、考える際のヒントになるよう配慮する。</li> <li>机間巡視をし、話し合いが進まないグループにはヒントを与える。</li> <li>1～2グループに発表してもらおうが、時間を考慮する。</li> </ul>	
整理 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントに外交の変化について文章にまとめる。</li> <li>プリントを提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16世紀までの外交と比較するよう指示する。</li> <li>プリントを回収する。できなかった場合は、宿題にするよう指示する。</li> </ul>	<p>本時の内容を、文章にまとめられたか。(イ)</p> <p>【プリント】</p>

## 6 目指す生徒の姿

この授業を通じて、主権国家体制下では各国が自国の利益を優先して政治を展開してゆくことを学ばせたい。このことは、現代世界にも通じるところである。「17世紀までは戦争がおこる原因として宗教が原因であることが多かったが、主権国家体制が確立してからは、各国は自国の利益を優先して外交を展開するようになった。」などと文章にまとめられるようにしたい。

【問】 ヨシタカ君は、国公立大学への進学を希望しており、S大学が第1志望である。S大学の受験科目を調べたところ、大学入学共通テストは6教科8科目で1000満点を500点に換算、二次試験は英語と数学の選択で100点だった。ヨシタカ君は英語にも数学にも自信があるため、二次試験の受験科目を決める参考に、S大学の二次試験のオープン模試を受検した。結果は英語も数学もともに70点であった。ただし、英語は平均点61点、数学は平均点が58点であった。

質問① ヨシタカ君は数学と英語のどちらで受験した方が良いか考えてみよう。

【問】 ヨシタカ君は点数だけではどちらが良いか判断できず、偏差値を参考にすることにした。

偏差値は  $10 \times \frac{\text{得点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50$  で求められる

英語は得点70点、平均点61点、標準偏差5点  
数学は得点70点、平均点58点、標準偏差8点である。

質問② ヨシタカ君の数学と英語の偏差値を計算し、どちらで受験した方が良いか考えてみよう。

$$\begin{aligned} \text{英語の偏差値} &= 10 \times \frac{70-61}{5} + 50 & \text{数学の偏差値} &= 10 \times \frac{70-58}{8} + 50 \\ &= 10 \times 1.8 + 50 & &= 10 \times 1.5 + 50 \\ &= 68 & &= 65 \end{aligned}$$

偏差値で考えると英語の方が良い。

【問】 今回の模試では英語も数学も受験者は2000人だった。S大学の定員は200人である。ヨシタカ君は英語、数学それぞれの上位100人を合格にすると考え、標準正規分布を利用して合格の可能性を判断しようと考えた。

質問③ ヨシタカ君の今回の成績から、英語の  
(i) ヨシタカ君の順位。  
(ii) 合格最低点。  
を標準正規分布の表を使って考えよう。

正規分布  $N(\text{平均}, \text{標準偏差}^2)$  は

$$Z = \frac{X - \text{平均}}{\text{標準偏差}} \text{ で標準正規分布 } N(0, 1) \text{ へ}$$

順位は 英語の得点を  $X$  とすると、 $Z = \frac{70 - 61}{5} = 1.8$

$Z$  は標準正規分布  $N(0, 1)$  に従うから、

$$P(X \geq 70) = P\left(Z \geq \frac{70 - 61}{5}\right) = P(Z \geq 1.80)$$

$$= 0.5 - p(1.80) = 0.5 - 0.4641 = 0.0359$$

$2000 \times 0.0359 = 71.8$  から、ヨシタカ君は上位の約71位である。

最低点は  $P(Z \geq u) = \frac{100}{2000} = 0.05$  となる  $u$  の値を求める。

$$P(Z \geq u) = 0.5 - P(0 \leq Z \leq u) = 0.5 - p(u) = 0.05 \text{ より}$$

$$p(u) = 0.45 \text{ 正規分布の表から、 } u \text{ の値は } 1.64 \text{ または } 1.65$$

$$\frac{X - 61}{5} = 1.64 \text{ より } X = 69.2, \quad \frac{X - 61}{5} = 1.65 \text{ より } X = 69.25 \text{ よって、}$$

最低点はおよそ69点である。

(参考) 数学の順位は約133位、最低点はおよそ71点

令和5年度 授業研修 理科 (物理)

日時 令和5年11月10日(金) 2校時

対象 2年A組 物理選択者(12名)

授業者 高橋 智也

本時の目標

気体の状態方程式について理解を深める。

授業展開

- 1 前時の確認(ボイル・シャルルの法則)と授業の流れの確認

$$\frac{P_1 V_1}{T_1} = \frac{P_2 V_2}{T_2} = k \text{ (定数)}$$

- 2 気体定数R(上記式のk)を求める。

標準状態(0℃=273K、1気圧=1.013×10<sup>5</sup>Pa)において、1molの気体の体積が22.4L=2.24×10<sup>-2</sup>m<sup>3</sup>になることを上記ボイル・シャルルの式に当てはめて計算することにより、気体定数

$$R = 8.31 \text{ (Pa}\cdot\text{m}^3\text{/K}\cdot\text{mol)}$$

- 3 状態方程式を完成させる

$$P V = n R T$$

- 4 演習問題(プリント)による定着

授業者より

気体について、気体定数は問題などでも普通に提示される値であるが、一度はその成り立ちについて計算させることによって、問題に取り組む際にも理解を深めた状態で解答に向かうことができると考えた。計算の際には各要素について単位の関わりや変換に注意させることにより知識の定着につながると考え、丁寧な説明と確認に努めながら進めた。

演習問題では、計算の手数に戸惑いながらも、仲間の協力を得ながらしっかり取り組んでいたと思う。

参観者からの感想(抜粋)

- ・授業の狙いが明確に示されており、生徒は何を学ぶのかよく理解していた。
- ・個人で問題に取り組んだ後、グループで確認し合うようにさせており、生徒が主体的に活動する場面も設定されていた。
- ・本時の目標に至るまで段階を踏んで生徒に理解させており、生徒の思考を促す工夫がされていた。生徒の理解も深まって実際の問題にも公式をうまく適用できていた。
- ・Pが圧力(Pa)、Vが気体の体積(m<sup>3</sup>)、Tが温度(K)であることを生徒は理解していると思うが、時々英単語由来であることを織り交ぜておくと、英語の勉強にもなると思った。

などなど

# 原動機 「ターボポンプの特性曲線と現象」

2D 番 氏名

## 「ターボポンプの特性曲線と現象」 教科書67～68

### 遠心ポンプの揚水原理

ターボポンプは、要求された全揚程  $H$  [m] と吐出し量  $Q$  [ $\text{m}^3/\text{min}$ ] のときに、最高の効率  $\eta$  [%] を発揮するように設計する。これらの条件を一括してポンプの設計点という。

図47に、測定結果から作成した遠心ポンプの特性曲線の例を示す。図において、締切状態（吐出し量0）から、吐出し量  $Q$  の増加とともに全揚程  $H$  は緩やかに低下するが、軸動力  $P_e$  は逆に増加する。なお、効率  $\eta$  は、設計点で最大となり、この付近では吐出し量  $Q$  に対する変化は少ない。

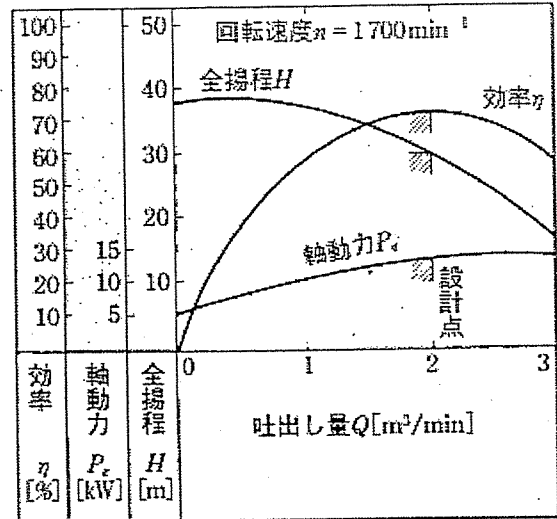


図47 遠心ポンプの特性曲線の例

### 水撃作用

液体が管路を流れているとき、仕切弁などで管路を急に閉じると、弁の上流で急激な圧力上昇が起こる。このために、管やバルブ、その他の装置が破壊されることがある。これを水撃作用という。この現象は、運動エネルギーの急激な減少が、圧力のエネルギーの急激な増加をもたらすことにより発生する。したがって、水車や、ポンプのような流体機械では、急激な流速の変化を起こさないように、運転を制御する。

### キャビテーション

液体の流れにおいて、圧力が著しく低下すると、やがて沸騰がはじまる。その沸騰で発生した気泡は、流れに乗って下流の圧力の高い領域に運ばれ、やがて崩壊する。この崩壊のときには、きわめて高い圧力が発生するので、騒音や振動が発生したり、壁面の材料が壊食を受けたりすることがある。このような現象をキャビテーションという。

### サージング

サージングは、ポンプの運転中に、それに連なる配管や弁などを含めた系全体の液体が、流れの中でたがいに影響を及ぼして発生する周期的な振動現象である。

サージングを起こすと、吐出し圧力と吐出し量が周期的に変動して、吸込み側や吐出し側に設けた圧力計の指示値が激しく変動し、ポンプや管路も振動を起こして運転が不安定になり、ときには運転の持続が困難になる。

サージングは、図49に示すような特性曲線にある右上がりのこう配のところでは運転し、かつ、管路内への空気の混入により、ポンプと流れを絞る弁や計器類を結ぶ管路の途中に空気だまりを生じる場合などに発生しやすい。一方、右下がりのこう配の部分には一般に効率がよく、しかも安定している。このため、図のようなこう配特性をもつポンプは、サージングの発生を防止するためにも、右上がりのこう配の部分を選んで運転することが重要である。

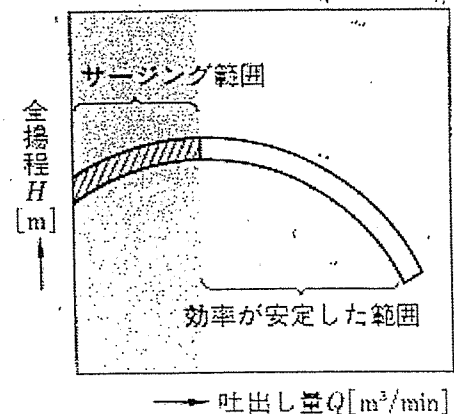


図49 全揚程と吐出し量の関係を示す特性曲線

目標 実際の PLC の使用について理解する。

三菱の PLC → FX3G シリーズの場合

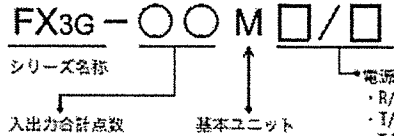
○ハードウェア編

ハードウェアマニュアルの内容

3.1.1 基本ユニット



基本ユニットは、CPU、メモリ、入出力、電源を内蔵した製品です。  
システムを検討する時には、必ず1台は必要になります。



- ・R/ES : AC電源/DC24V (シンク/ソース) 入力/リレー出力
- ・T/ES : AC電源/DC24V (シンク/ソース) 入力/トランジスタ (シンク) 出力
- ・T/ESS : AC電源/DC24V (シンク/ソース) 入力/トランジスタ (ソース) 出力
- ・R/DS : DC電源/DC24V (シンク/ソース) 入力/リレー出力
- ・T/DS : DC電源/DC24V (シンク/ソース) 入力/トランジスタ (シンク) 出力
- ・T/DSS : DC電源/DC24V (シンク/ソース) 入力/トランジスタ (ソース) 出力

形名	入出力点数			入力形状	出力形式	接続形状
	合計点数	入力点数	出力点数			
<b>AC電源/DC24Vシンク・ソース入力共用タイプ</b>						
FX3G-14MR/ES	14 (16) ※1	8	6 (8) ※1	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-14MT/ES	14 (16) ※1	8	6 (8) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-14MT/ESS	14 (16) ※1	8	6 (8) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台
FX3G-24MR/ES	24 (32) ※1	14 (16) ※1	10 (16) ※1	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-24MT/ES	24 (32) ※1	14 (16) ※1	10 (16) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-24MT/ESS	24 (32) ※1	14 (16) ※1	10 (16) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台
FX3G-40MR/ES	40	24	16	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-40MT/ES	40	24	16	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-40MT/ESS	40	24	16	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台
FX3G-60MR/ES	60 (64) ※1	36 (40) ※1	24	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-60MT/ES	60 (64) ※1	36 (40) ※1	24	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-60MT/ESS	60 (64) ※1	36 (40) ※1	24	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台
<b>DC電源/DC24Vシンク・ソース入力共用タイプ</b>						
FX3G-14MR/DS	14 (16) ※1	8	6 (8) ※1	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-14MT/DS	14 (16) ※1	8	6 (8) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-14MT/DSS	14 (16) ※1	8	6 (8) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台
FX3G-24MR/DS	24 (32) ※1	14 (16) ※1	10 (16) ※1	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-24MT/DS	24 (32) ※1	14 (16) ※1	10 (16) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-24MT/DSS	24 (32) ※1	14 (16) ※1	10 (16) ※1	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台
FX3G-40MR/DS	40	24	16	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-40MT/DS	40	24	16	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-40MT/DSS	40	24	16	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台
FX3G-60MR/DS	60 (64) ※1	36 (40) ※1	24	DC24V (シンク/ソース)	リレー	端子台
FX3G-60MT/DS	60 (64) ※1	36 (40) ※1	24	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (シンク)	端子台
FX3G-60MT/DSS	60 (64) ※1	36 (40) ※1	24	DC24V (シンク/ソース)	トランジスタ (ソース)	端子台

※1. ( )内の数字は占有点数になります。

技能検定 電気機器組立て (シーケンス制御作業) 実技試験 使用工具

PLC (プログラミングツール及びツール接続ケーブル含む)

入力: DC 24V 9点以上      出力: 接続式又は DC 24V オープンコレクタ式 6点以上  
(供給電源 AC 100V)



プログラミングマニュアルの内容

2) FX3G・FX3GCシーケンサ

デバイス名	内容		参照
<b>入出力リレー</b>			
入力リレー	X000~X177	128点	デバイス番号は8進番号 入出力合計は128点
出力リレー	Y000~Y177	128点	
<b>補助リレー</b>			
一般用	M0~M383	384点	4.3節
EEPROMキープ用	M384~M1535	1152点	
一般用※1	M1536~M7679	6144点	
特殊用※2	M8000~M8511	512点	37章
<b>ステート</b>			
イニシャルステート用 (EEPROMキープ)	S0~S9	10点	4.4節
EEPROMキープ用	S10~S899	890点	
アナンシェータ用 (EEPROMキープ)	S900~S999	100点	
一般用※1	S1000~S4095	3096点	
<b>タイマ(オンディレイタイマ)</b>			
100ms	T0~T191	192点	0.1~3.276.7秒
100ms [サブルーチン、割込みルーチン用]	T192~T199	8点	0.1~3.276.7秒
10ms	T200~T245	46点	0.01~327.67秒
1ms 積算形 (EEPROMキープ)	T246~T249	4点	0.001~32.767秒
100ms 積算形 (EEPROMキープ)	T250~T255	6点	0.1~3.276.7秒
1ms	T256~T319	64点	0.001~32.767秒
<b>カウンタ</b>			
一般用アップ(16ビット)	C0~C15	16点	0~32,767カウント
EEPROMキープ用アップ(16ビット)	C16~C199	184点	0~32,767カウント
一般用双方向(32ビット)	C200~C219	20点	-2,147,483,648~ +2,147,483,647カウント
EEPROMキープ用双方向(32ビット)	C220~C234	15点	-2,147,483,648~ +2,147,483,647カウント

※1. オプションのバッテリー使用時は、パラメータにてデバイスをキープ用(バッテリーバックアップ)に変更可能です。ただし、停電保持範囲を設定することはできません。

※2. 対応機能は、37章を参照してください。  
停電保持領域の扱いについては、2.6節を参照してください。

三菱 FX3G-40MR/ES

種類	機器番号	数
入力リレー		
出力リレー		
補助リレー		
タイマリレー		
カウンタリレー		

# 授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	塩谷太		
授業者	齋藤良樹	教科名	数学
科目名	数学B	教室	2A教室
参観日時	令和5年11月20日(月)6校時		

## 授業参観の観点

- A 授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
- B ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
- C 観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
- ① 知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
- ② 思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
- ③ 主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

## 授業改善のために参考になったこと

新課程となり、私自身今まで一度も教えたことのない、統計的な推測についての授業を参観した。基本事項をわかりやすい置き換えを用いて確認しながら、教科書章末問題レベルまで、生徒を導いていく手法はさすがという感じで感服した。特に、生徒自身があたかも自分達でそのレベルまで達したかのように錯覚させ成就感を持たせるあたりは、高度な数学的見地と経験のなせる技と思い、大いに参考になった。

## その他 気づいた点

共通テスト等でおなじみの実生活に関連する長文の問題を作題し用いていたが、無理矢理作った感じがせず、ごく自然に生徒に数学以外のアプローチを与えることができていた。今回は進学に関する進路指導を考えさせる内容にもなっていたため、そちらを考えることにより、ある意味考え方の視点の切り替えが効き、肝心の数学的内容について、より集中力が増した状態で取り組むことができていた。

# 授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	高橋 環		
授業者	斎藤 良樹	教科名	数学
科目名	数学B	教室	2A教室
参観日時	令和 5 年 11 月 20 日 ( 月 ) 6 校時		

## 授業参観の観点

A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

## 授業改善のために参考になったこと

- ・新課程で数学Bに入ってきた「統計的な推測」は指導の経験がなく、指導法だけでなく内容も含め勉強になりました。導入部で受験教科・科目の確認をされていましたが、普通科2年生でも現時点では意外に知らないんだなと感じました。
- ・オリジナルの教材で生徒の興味関心を喚起させ、発問も適切でベテランらしいものでした。
- ・始めに標準偏差を提示せずに数学と英語を比較させ、その後で標準偏差も提示して偏差値で比較させる意図も理解できました。問題の数値設定にも感心しました。

## その他 気づいた点

- ・本時の目標は「ヨシタカ君のことを考えてあげる。」なのでしょうか？「偏差値の有用性に気づくことができる。」などの方が適切でしょうか、研究授業であれば当然そうされることでしょう。
- ・生徒はグループ活動にやや不慣れかな、と感じました。ただ私も昨年の互見授業のときだけグループ活動をさせたら、数学が得意な生徒だけ話をしているような状態でした。

お疲れ様でした。

# 授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	柿崎 治夫		
授業者	杉山 由紀子(JTE) アンドレ バレト(ALT)	教科名	英語
科目名	論理・表現 I	教室	1A教室
参観日時	令和 5 年 10 月 3 日 ( 火 ) 6校時		

## 授業参観の観点

A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

## 授業改善のために参考になったこと

・生徒に英語を書かせて評価をするのにクロムブックを用いており、キーボードに慣れている今の高校生にとっては英語であっても書くことに取り組みやすかったと思う。私の授業では紙に書かせてきているが、この方法も検討する時期にきているようである。

・ALTが英文を打ち込む様子が電子黒板に示されていた。まとまった英文を作成することが、今回は与えられた3つの質問に対する回答を順に並べることで可能になることを、ALTが実際に書くことで示していたことになる。生徒にとってもこの作業でできるようになることを目にするのができ、英文作成のハードルが低くなっていたと思う。

## その他 気づいた点

・生徒が発表した英文に対し、JTEが丁寧に、ときに感情豊かにコメントをしており、英語を書くことへの心理的負担を軽減させていたと思う。

・主にALTがクロムブックを使用していたが、代わりにJTEが使用することでALTが発表に耳を傾けることに集中できるようになる。

# 授業参観シート

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

参観者	柿崎 治夫		
授業者	高橋 智也	教科名	理科
科目名	物理	教室	物理地学実験室
参観日時	令和 5 年 11 月 10 日 ( 金 ) 2校時		

授業参観の観点	
A	授業のねらいや目標が明確に提示されているか。
B	ペアワークやグループ活動、ディスカッションなど生徒が主体的に活動し、表現する場面が設定されているか。
C	観点別学習状況評価 <生徒の取り組みを観察してください。>
①	知識・技能(学習内容を理解している、知識を身につけている、～することができる。)
②	思考・判断・表現(各教科の特質において育まれる見方・考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている。)
③	主体的に学習に取り組む態度(主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。)

<p>授業改善のために参考になったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気体の状態方程式 <math>PV=nRT</math> には、気体定数 <math>R(=8.31)</math> が使われているが、その値がなぜそうなるのかを、ボイル・シャルルの法則にまつわる公式から導かせようとしていたが、基礎基本に立ち返る観点から、よい指導だったと思う。</li> <li>・物理と化学で、気体の状態方程式で使用する各変数の単位が若干違うことを 50 分の中で何回か繰り返していたが、物理選択の生徒に対しては何度話しても損しないことである。科目間・教科間で有用となる知識については、どんなことであれ、機会を見て伝えていきたい。</li> </ul>
<p>その他 気づいた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>P</math> が圧力(Pa)、<math>V</math> が気体の体積(<math>m^3</math>)、<math>T</math> が温度(K)であることを生徒は理解していると思うが、時々英単語由来であることを織り交ぜておくと、英語の勉強にもなると思った。</li> <li>・体積の単位 L を <math>m^3</math> に変換するところで、1 L は1辺が 10 cm の立方体の体積であるので、<math>10\text{ cm} \times 10\text{ cm} \times 10\text{ cm}</math> から求められることが示されていたが、<math>10\text{ cm} = 0.1\text{ m} = 10^{-1}\text{ m}</math> なので <math>1\text{ L} = 10^{-1} \times 10^{-1} \times 10^{-1}\text{ m}^3 = 10^{-3}\text{ m}^3</math> とすると数学の指数計算の応用となり、<math>R</math> を求めるときもいくらか楽になり、今後も様々な計算の時に楽になるだろうと感じた。</li> </ul>

# 令和5年度 総合ビジネス科の取り組み

## リーダーズキャンプ・ビジネスプランニングコンテストの実施

主任 教諭 高橋 雅典

### はじめに

新学習指導要領における商業の目的に「ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成を目指し、ビジネスに関わる「創造的」な能力・態度を育む」ことが謳われたことに鑑み、従来独立した事業であった「リーダーズキャンプ」と「ビジネスプランニングコンテスト」を有機的に結びつけ、前者でビジネスの創造のための知識・技能を学び、後者で実践をする目的で日程・内容を設定した。

### 内容

リーダーズキャンプでは、実際に起業された経験を、より具体的に伝えてもらえることを目的として、湯沢市で活動された元「地域おこし協力隊」の方3名にインタビューする形で行った。起業における喜び、面白さ、苦勞について具体的な事例をもとにお話いただいた。また、3名とも女性だったこともあり、インタビューを担当した本校女子生徒にとって、地元でのリアルなビジネス創造をイメージできたことは幸いであった。動画を参照された参加校の生徒はどのような感想を持たれたであろうか。

また、株式会社イーストのビジネスプランニングとマーケティングの手法に関わる講話では、高校生もイメージしやすい事例をもとに、ビジネスの創造とサービス・商品の提供についてのフレームワークを提示して具体的な手法について学ぶことができた。

もちろんこれらの内容を「湯沢のことだから」「東京の会社のいうことだから」として役には立たないと一刀両断することももちろん可能だろうが、他社の事例をいかに自分事として落とし込めるか、これがビジネスの創造につながるのではないだろうか。

## I 概要

### (1) 実施日および会場

#### ① リーダーズキャンプ

令和5年12月下旬より動画公開

※オンライン動画の視聴による参加

参加：6校 生徒27名 教員11名

※他、動画視聴希望校1校

講師 株式会社イースト 門下 大樹

### 「元湯沢市地域おこし協力隊

- ・たびの輪ツアー 齋藤 あゆみ
- ・みちのく reMakers 豊留 侑莉佳
- ・杉宮精香堂 赤石 朝美

### ② ビジネスプランニングコンテスト

令和6年2月中旬より応募開始・審査

提出締切 令和6年2月14日(水)

審査期間 令和6年2月15日(木)

～2月22日(木)

成績発表 令和6年2月29日(木)

審査員：リーダーズキャンプ講師4団体

参加 ツアープラン部門

大館国際情報学院高校

「Welcome to the world of diversity～自由に過ごせるための第一歩」

「めんこいわらしとふらふらしねが？ 親子でいく運動不足解消・郷土愛育成の旅」

能代松陽高校

「自然豊かな能代を楽しもう」

「日本文化体験ミニツアー」

「アウトドアツアー」

角館高校

「LOVE LOVE 大作戦」

ビジネスプラン部門

能代松陽高校

「サウナで能代を元気に！」

「～自殺“0”へ～」

秋田商業高校

「子育てしやすい環境のために」

「らくらく無駄ナイ大作戦！！」

「寒天みっくす」

「Berry Cafe」

「目指せ！ファミリー満足度上昇」

「秋田を発展させようプロジェクト」

角館高校

「豊作のための方策は ～人も農業もスマートに～」

「廃校再興で再興！」

「雪好きあつまれ！～雪の魅力を伝え地域活性化～」

# 校内研修

## (1) 研修授業（互見授業）

日時：令和5年10月31日（火）～11月22日（水）

授業者：各教科代表者

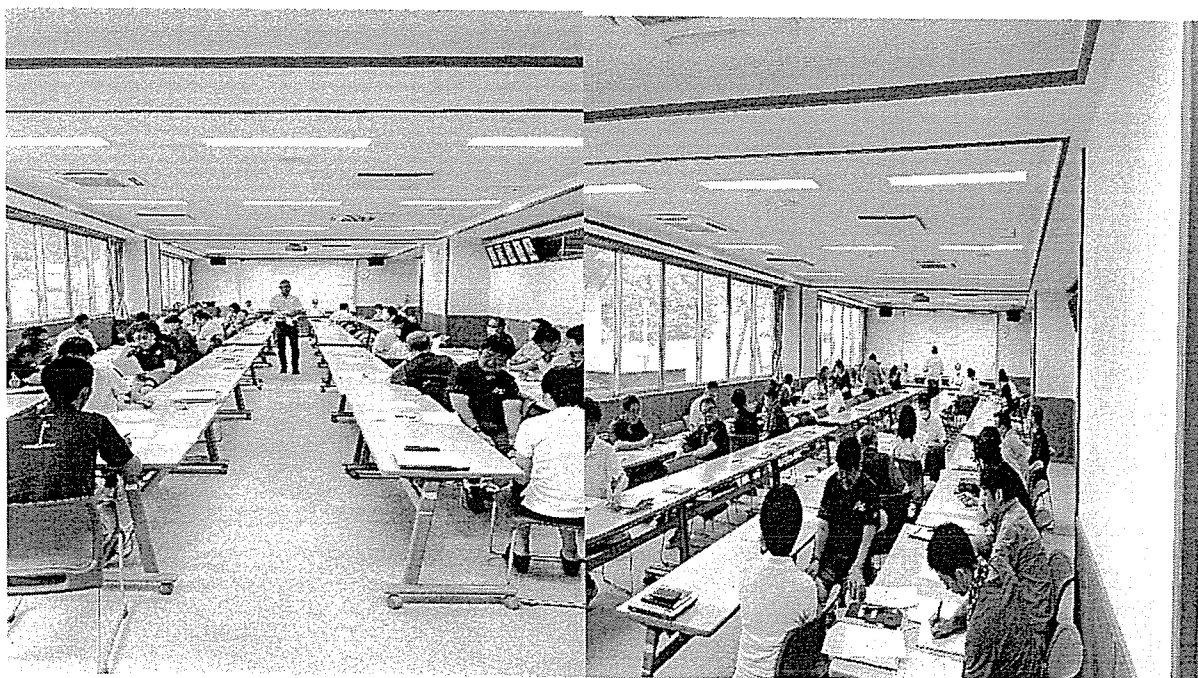


## (2) 教職員不祥事防止・いじめ防止研修

日時：令和5年8月25日（金）

参加者：本校教職員

講師：本校 管理職



## 令和5年度職員研修（いじめ防止・不祥事防止） 実施要項

研修部

1. 目的 今年度もマスコミ等で取り上げられ問題となっている教職員の不祥事やいじめ防止対策について、職場全体の課題として捉え、どのような取り組みや行動が必要かを再確認する。一人一人の職責と使命の自覚を再認識し、チームとして不祥事防止に取り組む。
2. 期 日 令和5年8月25日（金）職員会議終了後
3. 場 所 会議室
4. テーマ ①いじめ防止 ②不適切行為  
  
班分け 3～4名程度
5. 研修進行 1) 発表者の選出。  
2) 事例を用い、その背景・原因・防止策について話し合う。  
3) 班から代表の1名が発表。  
4) 管理職より、指導助言。

各事例において

班討議 → 班発表 → 管理職指導助言

最後に教職員全員が不祥事防止チェックリストに記入し、確認を行い終了する。



### ① SNSの書き込みからいじめが発見された事例

生徒Aは、学級委員として活躍するなど、学校生活において、何事にも積極的に取り組み、夏休み前の欠席は1日もなかった。しかし、9月に入ったばかりの2週間の中に3回、腹痛や気分の悪さを訴え、保健室で身体を休めることが続いた。担任は、休み時間、生徒Aに、家庭の様子や友人関係などについて聞いたところ、話しづらそうに「誰にも言わないでください。」と前置きした上で、「最近、仲のよかった生徒Bたちとうまくいっていない気がする。」と話した。担任が「どうして、そう思うの。」と聞くと生徒Aは、「何となく。」とだけ答えた。担任は、生徒Aを気に掛けて観察していたが生徒Aは、教室に戻ると、以前と同じように、授業中に発言する等、意欲的に取り組んでいた。担任は、しばらく様子を見ることにした。9月下旬のある日の昼休み、担任は、暗い表情をして沈み込み、教室に一人である生徒Aに気付いた。担任は、その日の放課後、生徒Aに「何か心配なことがあるの。」と聞くと、生徒Aは、「昨日、生徒Bたちから、SNSに『お前、調子に乗るなよ。ばか。』と書き込まれた。」と話した。

#### 取組について

各対応として求められることとは（何をしなくてはならないか）

- 
- 
- 
-

## いじめの認知と情報共有

### 生徒Aの支援体制づくりと事実の確認

#### 加害の生徒への対応

#### 学校体制と情報モラル教育の推進

### いじめの認知と情報共有

- ・ 担任は生徒AにSNSの書き込みを削除しないよう伝えるとともに、学年主任に報告した。
- ・ 学年主任は、生活指導主任及び管理職に報告した。
- ・ 校長は担任に事実確認を行うよう指示するとともに、直ちに「学校いじめ対策委員会」を招集した。
- ・ 「学校いじめ対策委員会」にて事案を「いじめ」と捉え、今後の対応と役割分担を決定した。

### 生徒Aの支援体制づくりと事実の確認

- ・ 担任は、生徒Aから、生徒Bたちとの関係について聞き取りを行い、新たに生徒Bのグループのメンバーである生徒C、生徒Dの情報を得た。
- ・ 担任は、生徒Aから得た新たな情報を学年主任に報告した。
- ・ 担任は生徒Bを含む関係生徒の担任へ報告した。
- ・ スクールカウンセラーは生徒Aとの面談を通して、生徒Aの心のケアを行った。

#### 加害の生徒への対応

- ・ 生徒Aから聞き取った内容やSNSの書き込みを基に、生活指導主任及び生徒B、生徒C、生徒Dの担任が、個別に聞き取りを行い、SNSに書き込みをした理由やそれぞれの思い、言い分をじっくりと聞いた。他人の痛みを理解できるよう、指導を根気強く行った。
- ・ 担任は、生徒Aの保護者にこれまでの経緯と今後の対応について説明するとともに、生徒B、生徒C、生徒Dの保護者にも同様の内容を説明した。

#### 生徒A及び加害の生徒への対応

- ・ 生徒A及び生徒B、生徒C、生徒Dの了承を得た上で、生活指導主任と担任が同席して話し合いの場を設定した。毎日下校時に、担任は生徒Aと簡単な面談を行って、生徒Aの状況を把握するとともに、適宜、スクールカウンセラーとの面談を設定して、生徒Aの心のケアを行った

#### 学校体制と情報モラル教育の推進

- ・ 担任は指導の経過を「学校いじめ対策委員会」に報告するとともに、休み時間や登下校の様子を観察するための校内体制を整え、複数の教職員で生徒Aの見守りを行った。
- ・ インターネットを通じて行われるいじめを阻止することを目的として、情報モラルに関する授業を全学年で実施した

## ② 生徒に対するわいせつ行為等（セクシュアル・ハラスメント）

（状況） J教諭は、勤務校の複数名の女子生徒と携帯電話による無料通信アプリ「LINE」等でやりとりをし、その中でセクシュアル・ハラスメントにあたる不適切な内容を含むメッセージを複数回にわたり送信した。

（事後の発言等） 「生徒から相談を受ける中で気持ちが流されてしまった。」などと述べている。

（問題点等） J教諭の行為は、県教育委員会からの通知等により、生徒との個人的なメール等のやりとりが禁止されているにもかかわらず、LINE等を使用するなど、教員としての立場を忘れた軽率な行為であり、かつその内容は、生徒の人格を否定する許しがたいものであると言わざるを得ない。

- 1 この不祥事の根本にある問題点は何だと思えますか。
- 2 この不祥事が、私たちの学校で発生してしまったと仮定して、未然に防ぐために、組織として、あなた個人として、何かできたかもしれないことがありますか。

【組織として】

【個人として】

- 3 この不祥事が、私たちの学校で発生してしまったと仮定して、子どもたちや保護者に対し、組織として、あなた個人として、何かできることがありますか。

【組織として】

【個人として】

# 職員研修 チェックシート

氏名 \_\_\_\_\_

御自分で確信できる内容にチェックをお願いいたします。

できなかった内容に関しては今後、改善・確認をお願いいたします。

- 教職員には、教職員として果たさなければならない道徳的・社会的な責任・義務があるとともに、高い倫理観と自律心が求められると考え、コンプライアンス（法令遵守）等の徹底に努めている。
- 不祥事を他人事と捉えず、いつでも、どこでも、誰にでも起こり得るものと捉え、当事者意識・危機意識を持つように努めている。
- 一件の危機の裏には、多数のトラブル・苦情・失敗や、さらに多数の危機の芽があり、危機を回避するためには、トラブル・苦情・失敗に適切かつ迅速に対応し、危機の芽をつみ取ることが大切であることを理解している。
- 自ら、定期的に、チェックシートで検証し、自戒・自省に努めている。
- 不祥事を起こした場合、懲戒責任の他にも、法律上の責任として刑事責任や民事責任が問われることがあることを知っている。
- 懲戒処分に付されると、履歴書に記載されるとともに、昇給や各種手当、年金に影響するなど、生涯にわたって大きな経済的不利益を被ることを知っている。
- 自校で、不祥事が起きれば、不祥事に対する事後処理や、児童生徒や保護者への対応、さらには不祥事を起こした教職員の業務の肩代わりなど、本来業務に使うべき多くの労力と時間を無駄につぎ込まねばならないことを理解している。
- 教職員が相互に言動について指摘し合える「風通しのよい、空気がよどまない、働きやすい、働きがいのある」職場環境づくりや人間関係づくりの推進に努めている。
- 同僚の児童生徒に対する指導等について互いに関心を高め、無関心な態度をとらないよう心がけている。
- 同僚の言動等に何らかの危機的な兆候を把握した場合には、管理職や他の同僚と一緒に状況を確認している。

提出後に退席ください。

## 編集後記

湯沢翔北高校研修集録が完成しました。この冊子は、日々多忙な中、全職員の御協力のもとで完成できた努力の結晶です。今年度は、各種年次研修や本校で行われた様々な授業研修や職員研修を記録として残すことができ、今後の教育活動に向けての足掛かりになったと思っております。次年度も引き続き実り豊かな研修活動ができることを願っております。御寄稿で御協力頂いた多くの先生方に深く感謝の気持ちを申し上げます。

令和5年度 研修集録

令和6年3月発行

秋田県立湯沢翔北高等学校 研修部

〒012-0823

秋田県湯沢市湯ノ原二丁目1-1

秋田県立湯沢翔北高等学校